

## インドネシア消化器病関連学会講演報告

平成17年7月6日～9日まで、インドネシア消化器病学会、消化器内視鏡学会、肝臓学会の合同会議が、インドネシアのハサヌディン大学消化器病センター内科学講座 H.A.M.Akil 教授会長の下で開催されました。ハサヌディン大学は本学と国際交流協定を締結していて、会長より日本の胃癌および大腸癌の臨床・病理取り扱い規約について広くインドネシア消化器系専門医に講演して欲しいとの依頼があり、胃と大腸それぞれ病理診断の現状と、全国の国立大学で最初に佐賀大学医学部附属病院に導入されたペーパーレス電子カルテについて講演して来ました。

私の発表は、

1. 7月7日 Setellite Symposium 1 の

Clinicopathological diagnosis and classification of colon cancer

2. 7月9日 Guest lecture 4 の

Clinicopathological diagnosis and classification for earl and advanced gastric cancer

の2回でした。私の拙い英語で旨く伝えることができるか心配でしたが質問も結構あり、少しは役に立つことが出来たかなと思いました。

3. 他に、ハサヌディン大学から私の研究室に大学院生として留学しているラマワチ先生が7月8日 Setellite Symposium 7 の

Endoglin(CD105) expression in angiogenesis of colon cancer: Analysis using tissue microarrays and comparison with other endothelial markers

で講演し大変好評でした。

本学会は上記3学会合同の学会で中国、台湾、マレーシア、シンガポール、インドからも招待講演者が来ていて、同じセッションでドイツから Schoelmerich 教授、北京大学から Wang Bao En 教授、日本から私が講演し大いに会が盛り上がりました。

インドネシアには未だ統一された臨床・病理規約などはないので大変参考になりましたとの言葉を会長より頂き帰国の途につきました。

写真1

胃早期癌と進行癌の臨床病理学的分類について講演している筆者

写真2

講演認定証を受領しているゲストスピーカー3名

右:炎症性腸疾患と発癌 Jurgen Schoelmerich 教授 ドイツ

中央:中国医学(漢方)による肝線維化予防 Wang Bao En 教授 中国北京大学

右:筆者